

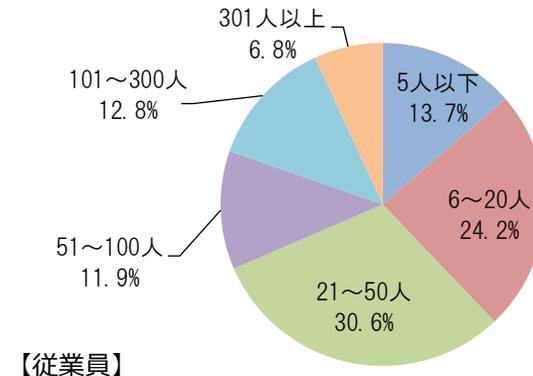
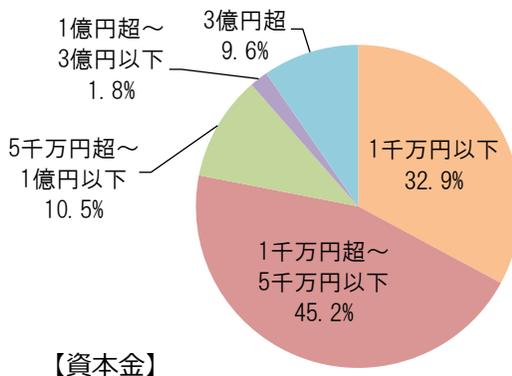
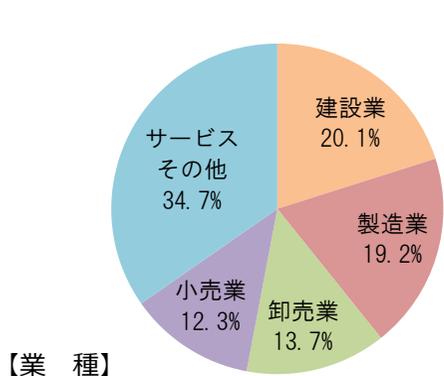
1. 調査期間 2025年1月8日(水)~2025年1月27日(月)
2. 調査対象 札幌商工会議所定期景気調査 登録企業526社
3. 回答状況 220社 (回答率41.8%)
4. 調査項目
  - ①1月の業況と先行き見通し
  - ②2025年の業況見通し、年度末に向けた資金繰りの状況
  - ③新卒採用 (2025年4月入社) の動向
5. 回答企業属性

(参考) 全国の調査結果についてはこちらをご参照ください

日本商工会議所  
The Japan Chamber of Commerce and Industry

商工会議所LOBO調査 結果

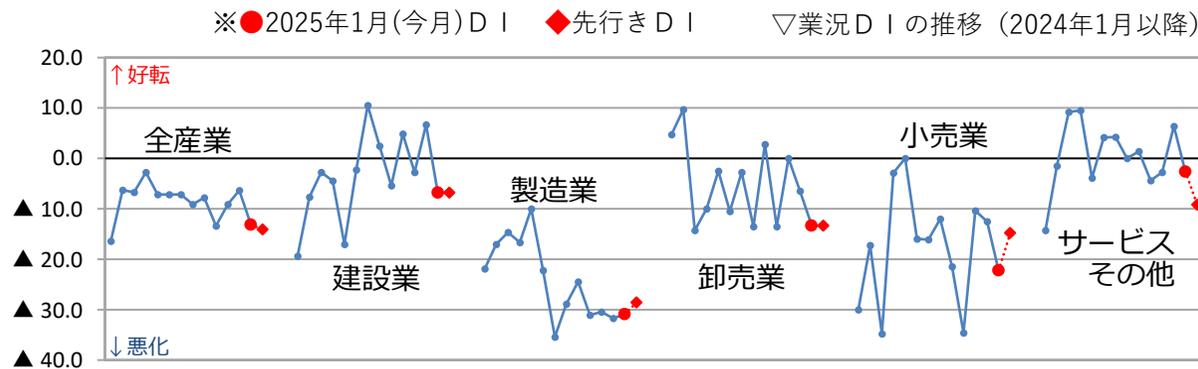
<https://cci-lobo.jcci.or.jp/>

## ①1月の業況と先行き見通し

全産業合計の業況DIは▲13.2と、前月から6.9ポイント悪化。先行き見通しDIは▲14.1とさらに悪化の見込み。

	2024年	2025年	
	12月	1月	2月~4月
全産業	▲ 6.3	▲ 13.2	▲ 14.1
建設	6.7	▲ 6.8	▲ 6.8
製造	▲ 31.7	▲ 31.0	▲ 28.6
卸売	▲ 6.5	▲ 13.3	▲ 13.3
小売	▲ 12.5	▲ 22.2	▲ 14.8
サービスその他	6.3	▲ 2.6	▲ 9.2



※DI値について…ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

※先行き見通しDI=当月(1月)と比べた、向こう3ヶ月(2月~4月)の先行き見通し

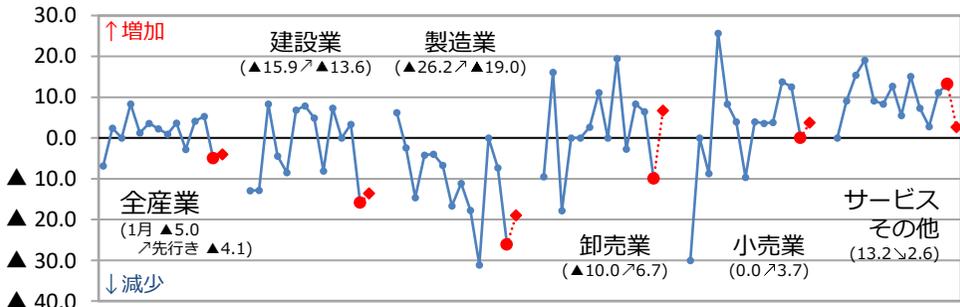
【例】

$$\text{業況DI} = \frac{(\text{好転} - \text{悪化}) \times 100}{(\text{好転} + \text{不変} + \text{悪化})}$$

### 1) 売上DIと先行き見通し

▽売上DIの推移 (2024年1月以降)

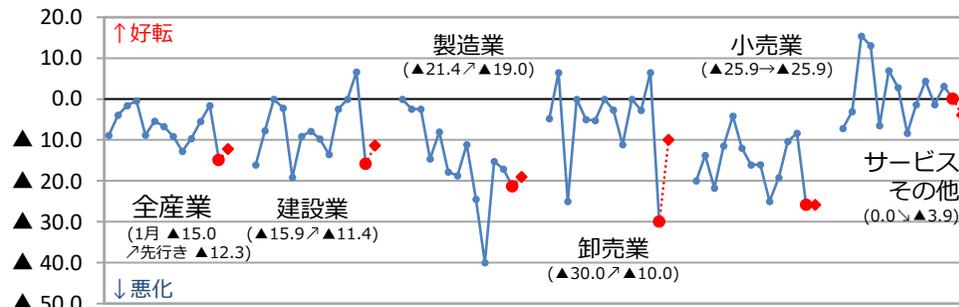
売上DIは▲5.0と前月から10.3ポイント減少で大幅に悪化。  
先行きDIは▲4.1と改善の見込み。



### 2) 採算(経常利益)DIと先行き見通し

▽採算DIの推移 (2024年1月以降)

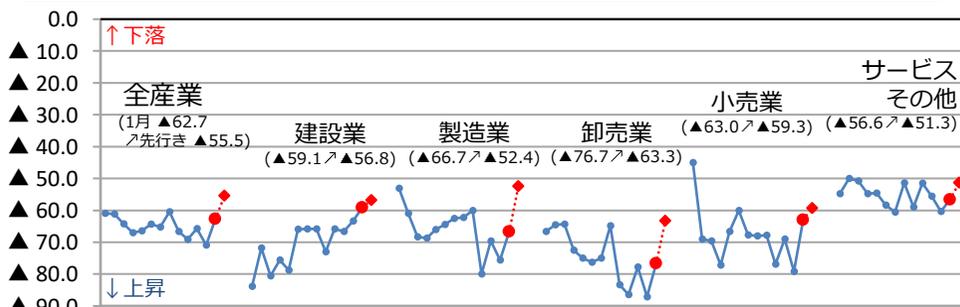
採算DIは▲15.0と前月から13.4ポイント減少で大幅に悪化。  
先行きDIは▲12.3と改善の見込み。



### 3) 仕入単価DIと先行き見通し

▽仕入単価DIの推移 (2024年1月以降)

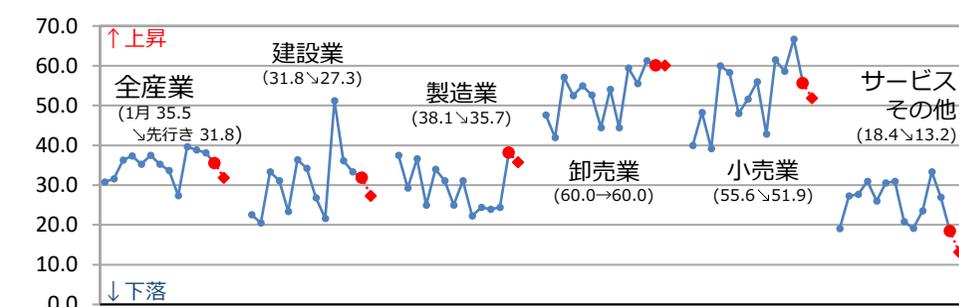
仕入単価DIは▲62.7と前月から8.2ポイントの増加。  
先行きDIは▲55.5と仕入価格の上昇を訴える傾向が弱まる見込み。



### 4) 販売単価DIと先行き見通し

▽販売単価DIの推移 (2024年1月以降)

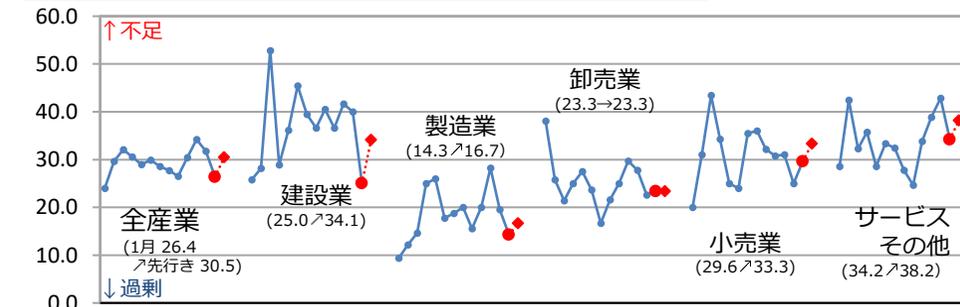
販売単価DIは35.5と前月から2.6ポイント減少。  
先行きDIは31.8と販売単価の上昇が弱まる見込み。



### 5) 従業員DIと先行き見通し

▽従業員DIの推移 (2024年1月以降)

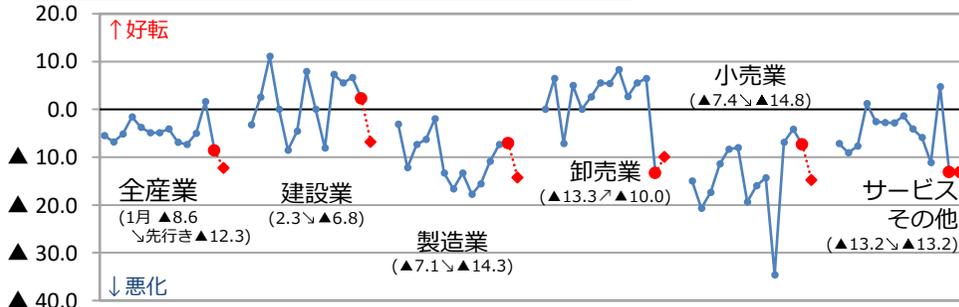
従業員DIは26.4と前月から5.3ポイントの減少。  
先行きDIは30.5で、人手不足感が強まる見込み。



### 6) 資金繰りDIと先行き見通し

▽資金繰りDIの推移 (2024年1月以降)

資金繰りDIは▲8.6と前月から9.0ポイントの悪化。  
先行きDIは▲12.3とさらに悪化の見込み。



## ②2025年の業況見通し、年度末に向けた資金繰りの状況

- ▶ 昨年と比較した2025年の業況を、「好転する」と回答した企業は23.7%（前年同月比+0.4ポイント）、「変わらない」は50.0%（同+9.6ポイント）、「悪化する」は21.1%（同▲6.3ポイント）となった。【図1】
- ▶ 製造業では「好転する」の割合が前年同月調査より増加した一方、その他の業種では「好転する」の割合が減少した。【図1】
- ▶ 資金繰りの対応については「金融機関への相談を行った」が2024年1月調査から、3.9ポイント増の21.7%、「資金繰りの相談は現時点で必要ない」は同3.5ポイント増の66.1%となった。また、「資金繰りに不安はあるが、相談していない」は同7.4ポイント減の12.2%となった。【図2】
- ▶ 「金融機関への相談を行った」と回答した企業の具体的な内容については、「新規・追加融資や借換により、希望通りの条件で新たな資金を調達できた」が58.3%で最も多く、「既往債務の同額での借換により、返済負担を軽減できた」が12.5%で続いた。また、2024年1月調査では回答が0件だった「希望より少ない額または短期間での返済の融資を受けた」企業は6.3%となり、資金調達に苦慮している企業の増加が見られた。【図2】

図1 【昨年と比較した、今年（2025年）の業況の見通し】

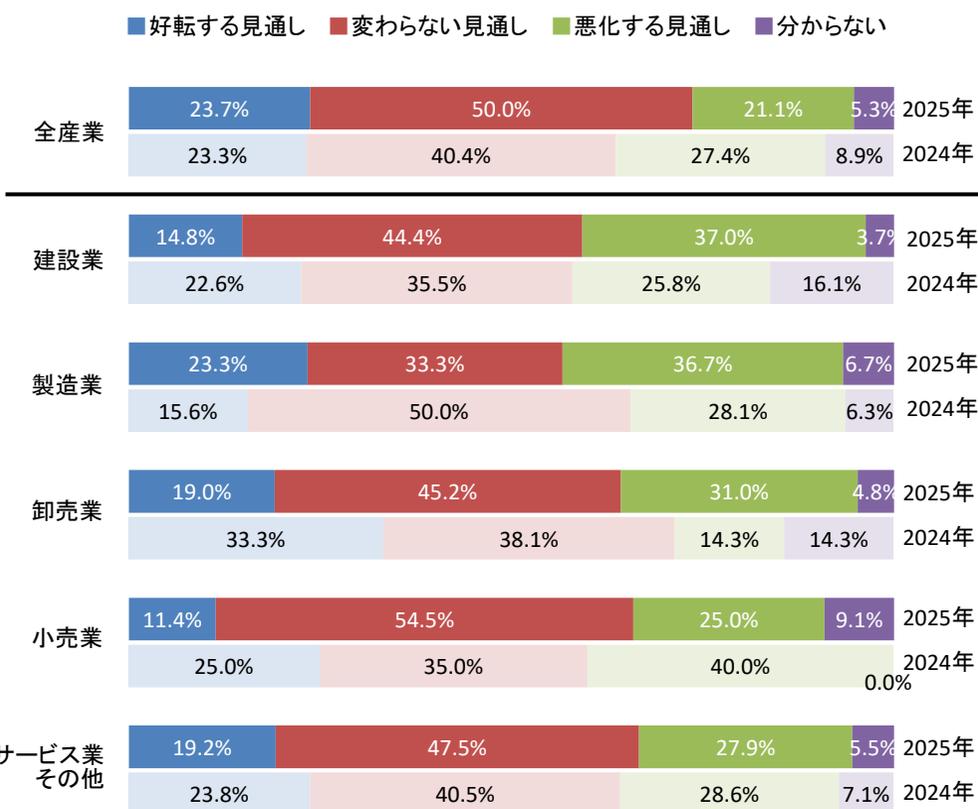


図2 【年度末に向けた資金繰りの対応】

金融機関への相談を行った	21.7% (+3.9ポイント)
資金繰りに不安はあるが、相談していない	12.2% (▲7.4ポイント)
資金繰りの相談は現時点で必要ない	66.1% (+3.5ポイント)

※()内は2024年1月調査との比較

【具体的な内容（上位5項目）】※金融機関への相談を行った企業が対象

新規・追加融資や借換により、希望通りの条件で新たな資金を調達できた	58.3% (▲8.4ポイント)
既往債務の同額での借換で、返済負担を軽減できた	12.5% (▲2.3ポイント)
融資・条件変更を受けられなかった既往債務の返済猶予等の条件変更を受けた	10.4% (▲0.7ポイント)
相談・審査待ちの状況	8.3% (+0.9ポイント)
希望より少ない額または短期間での返済の融資を受けた	6.3% (+6.3ポイント)

※()内は2024年1月調査との比較

### ③2024年度の新卒採用（2025年4月入社）の動向

- 2024年度の新卒採用（2025年4月入社）を「実施した」企業は39.7%と、2024年1月調査と比べ2.1ポイント減少。「今年度は実施しなかった」は2.3ポイント減の15.5%、「自社で新卒を採用していない」は4.3ポイント増の44.7%となった。【図1】
- 新卒採用を実施した企業のうち、「計画通りに採用できた」企業は30.2%と、2024年1月調査と比べ、0.7ポイント減少。「採用できたが計画した人数には満たなかった」企業は5.5ポイント増の41.9%、「募集をしたが、採用できなかった」企業は4.8ポイント減の27.9%となった。【図2】
- 採用活動にあたり取り組んだ事項については、「会社説明会の開催や合同企業説明会への出展」が60.5%と最も高く、「初任給の引き上げ」が59.3%、「採用ホームページの作成や求人サイトへの掲載」が58.0%であった。【図3】

図1 【新卒採用（2025年4月入社）の動向】

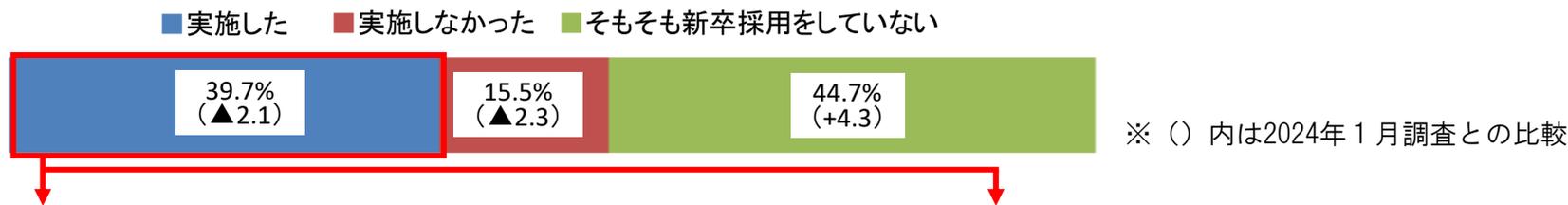


図2 【採用計画に対する充足状況】 ※新卒採用を「実施した」企業対象

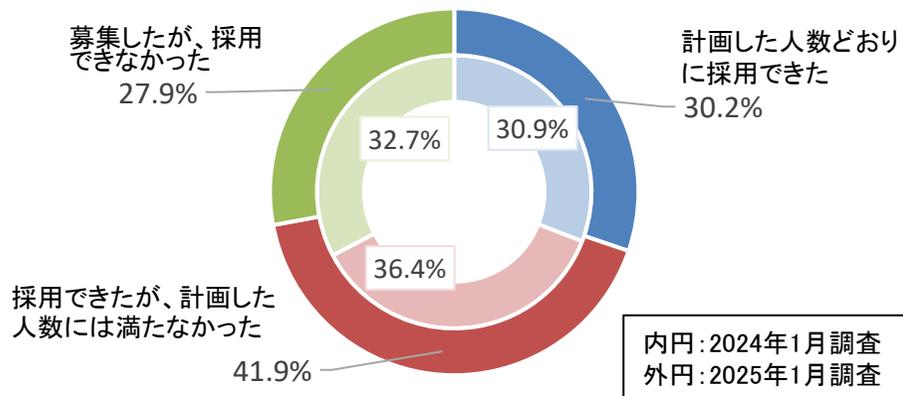
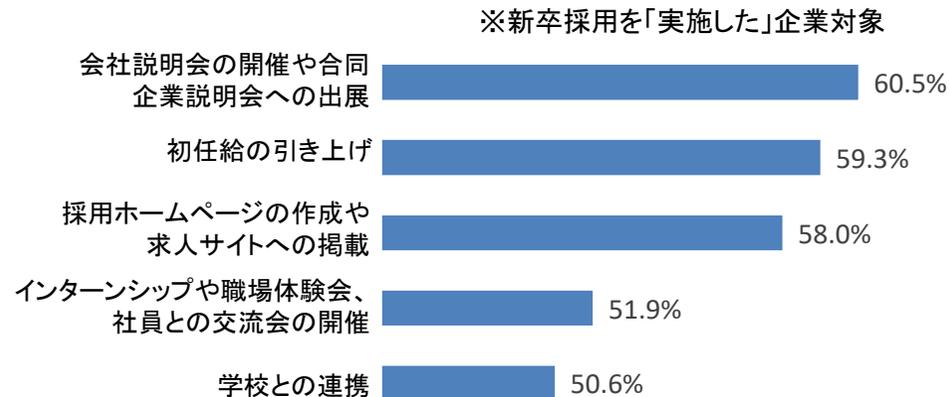


図3 【採用活動にあたり取り組んだ事項（複数回答/上位5項目）】



### (参考) 会員の声

- 原材料と人件費上昇の中、雇用に対しては消極的にならざるを得ない状況。価格転嫁もまだ不十分。 … 【中古自動車販売業】
- 人手不足、特に若手社員の早期退職が最大のネックになっている。 … 【機械器具販売業】
- 今年度はラピダスを含むスポット的な需要があり、売上が増加した。来年度はスポット案件が無く売上は減少する見込み。 … 【卸売業】
- 材料費は高騰しているものの、契約単価に反映できるか否か不明な状況で、交渉に対する不安が残る。 … 【建設業】